

地域連携担当教職員のためのお役立ちガイド

つなGO!

学校と地域

～連携・協働のススメ 5つのStep～



福島県教育庁会津教育事務所

目次

つなGO！ 学校と地域

～ 連携・協働のススメ 5つのStep ～

はじめに・・ 1

第1章 学校と地域の連携・協働の意義と効果

- 1 地域と共にある学校へ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
- 2 学校と地域の連携・協働の意義と効果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2

第2章 地域連携・協働の組織体制

- 1 地域連携・協働の推進体制・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
- 2 「地域連携担当教職員」の役割と職務・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
- 3 「地域学校協働活動推進員」の役割と職務・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
- 4 コーディネートの流れ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6

第3章 学校と地域の連携・協働の進め方

- 1 学校と地域の連携・協働状況の確認・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7
- 2 学校と地域の連携・協働の進め方・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8
 - Step1 地域連携の趣旨と連携・協働体制の共通理解・・・・・・・・・・・・ 8
 - Step2 校内のニーズの集約と学校支援ボランティアの募集・・・・・・・・ 9
 - Step3 地域との連絡調整・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10
 - Step4 情報発信と情報収集・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11
 - Step5 次年度に向けて年間計画の見直し・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12

第4章 地域との連携・協働を進めるに当たって

- 1 教職員の心得・・ 16
- 2 受け入れ体制の整備・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 17
- 3 地域の方を迎えるに当たっての留意事項・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 19
- 4 地域の方との共通理解について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 20

お役立ちシート集

- 学校支援ボランティア募集チラシ・登録申請書・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 22
- 校内ニーズ調査用紙（年間・学期毎・随時）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 24
- 学校支援ボランティア依頼書・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 26
- 学校支援ボランティア連絡シート・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 27
- 学校支援ボランティア事前打ち合わせ用紙・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 28
- 学校支援ボランティアの心得・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 29
- 学校支援ボランティアの皆さんへ（学校の日課、授業の流れ）・・・・・・・・ 30

はじめに

地域における教育力の低下、家庭の孤立化といった課題や、学校を取り巻く問題の複雑化・困難化に対して、社会総がかりで対応することが求められています。

また、新学習指導要領が目指す「社会に開かれた教育課程」の実現に向けて、学校は、地域との連携・協働を一層進めていくことが重要であり、地域においても、より多くの地域住民等が子どもたちの成長を支える活動に参画するための基盤を整備することが求められています。

会津域内においても、地域学校協働活動やコミュニティ・スクールの取組が広がってきています。今後、学校と地域がお互いパートナーとして結び付きを強め、学校と地域がそれぞれの役割を果たしながら、一体となって効果的な取組を実践することで「地域と共にある学校づくり」が実現されます。

福島県では、平成31年度から、全ての公立学校に、地域への窓口となる「地域連携担当教職員」を校務分掌に位置付け、その推進に努めています。

このガイドは、地域連携担当教職員の皆様が、地域とのパートナーシップのもと、学校と地域が連携・協働して子どもを育む活動を積極的に進めていただくための手引きとして作成しました。学校と地域が一体となった取組に役立てていただければ幸いです。

令和3年8月

福島県教育庁会津教育事務所

第1章 学校と地域の連携・協働の意義と効果

1 地域と共にある学校へ

学校運営に地域住民や保護者等が参画することを通して、学校・家庭・地域の関係者が目標や課題を共有し、地域のニーズを反映させながら、学校の教育方針の決定や教育活動を実践し、地域ならではの創意工夫を生かした特色ある学校づくりを進めていくことが求められています。

子どもたちの教育をよりよいものにしていくには、地域の人的・物的資源を生かしながら、教育課題を学校だけでなく地域全体の課題へとつなぎ、連携・協働して解決していくことが必要です。

地域との結び付きの中で、「**地域と共にある学校づくり**」を積極的に進めることで、地域から一層信頼され、地域が学校の応援団として、さらには、パートナーとしてともに課題や目指すビジョンを共有し、課題解決に取り組んでいくことができます。



2 学校と地域の連携・協働の意義と効果

① 学校と地域との連携・協働の意義

学校を取り巻く問題は複雑化・困難化し、今や学校だけでは対応が厳しい現状があり、社会総がかりで対応することが求められています。そのため、学校と地域がパートナーとして連携・協働し、組織的・継続的な仕組みを整備していくことが必要不可欠となってきます。

新学習指導要領の「**社会に開かれた教育課程**」の実現を目指し、学校と地域が連携・協働することで、子どもたちに未来の創り手となる必要な資質・能力を育むことができます。

② 学校と地域の連携・協働の効果

なぜ「学校と地域の連携・協働」 が大事なの？



「子どもたち」にとっては…

- 学校の先生以外の人にも褒めてもらえる機会が増えて、様々なことにやる気が出たり、自信が持てたりします。
- 地域のことをよく知っている方や専門的な仕事に関わっている方に教えてもらえるので、楽しみながら深く学べます。
- 様々な考え方を持つ人と交流し、多くの考え方を知ることで、色々な角度から物事を見たり、考えたりすることができます。
- 自分たちの地域に対する興味・関心が高まり、郷土を大切に思う気持ちを育むことができます。
- 地域の方に見守ってもらっているという安心感が生まれます。



「保護者」にとっては…

- 保護者同士や地域の方々との人間関係の構築につながります。
- 子どもが地域の中で育てられていることへの安心感が生まれます。
- 学校や地域に対する理解が深まるとともに、地域の一員であることを再認識します。



「教職員」にとっては…

- 外部人材の協力による教育の質の向上によって、子どもたちの学習意欲が高まり、学びの深まりが期待できます。
- 地域の方や保護者と顔の見える関係になり、学校の理解者や協力者が増え、風通しのよい学校運営の実現へとつながります。
- 教職員の業務のうち、教職員以外の者が担うことができるものについて協力・支援いただくことにより、業務の軽減が図られます。



「地域住民」にとっては…

- 自分の経験や知識を生かして学校支援活動に取り組むことで、自己有用感の向上や生きがいづくりにつながります。
- 子どもたちや学校への関わりを通して、地域住民同士のつながりが生まれます。
- 社会参加、社会貢献の機会となり、地域の活性化につながります。



第2章 地域連携・協働の組織体制

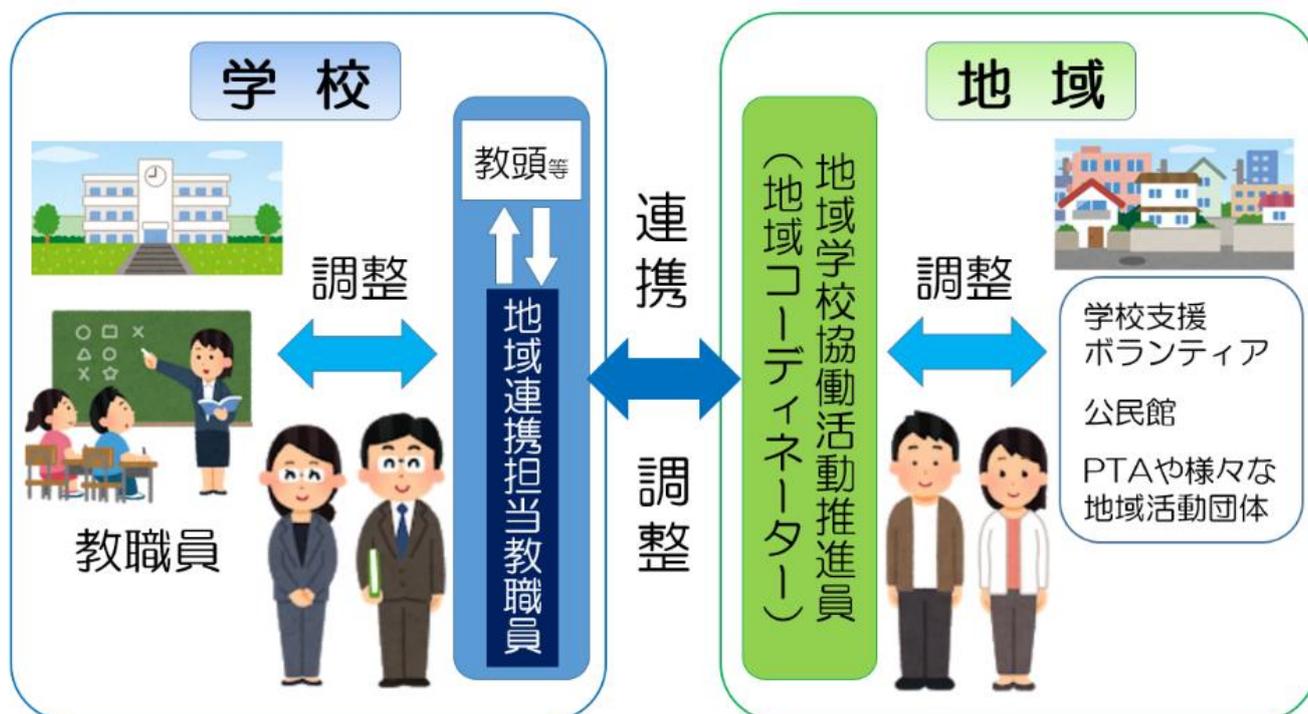
1 地域連携・協働の推進体制

学校と地域の連携・協働を推進すべく、平成31年4月1日から、全ての公立学校において「**地域連携担当教職員**」が校内体制に位置付けられています。校務分掌に位置付け、学校の窓口を明確にすることで、地域との連携・協働活動を進めていく上での校内体制が整備され、学校と地域が連携・協働した教育活動を効果的・効率的に展開させることができます。

なお、場合によっては、地域連携担当教職員と教頭等管理職が役割を分担しながら、地域との連絡・調整を進めていくことも効率的・効果的な体制づくりにおいて重要です。

教頭等と地域連携担当教職員の役割分担（例）	
教頭等	学校全体の方向性提示、地域との目的共有、地域連携担当教職員への指導助言及び指示、学校通信・HP等による情報発信など
地域連携担当教職員	校内の地域連携・協働活動の二ーズ集約、地域連携全体計画の作成、校内研修の計画・実施、地域（地域学校協働活動推進員、ボランティア等）との連絡・調整、情報交換など

また、市町村教育委員会が、地域の窓口である「**地域学校協働活動推進員**」（**地域コーディネーター**）（以下「推進員」と表記）を設置することで、より効果的で、継続的な学校と地域の連携・協働活動を展開していくことができます。



「地域連携担当教職員」は
学校と地域をつなぐキーパーソン

「地域学校協働活動推進員」は
地域と学校をつなぐキーパーソン

2 「地域連携担当教職員」の役割と職務

① 地域連携担当教職員の役割

学校教育目標を達成するために、校内のニーズを把握しながら地域連携全体計画等を作成します。学校側の窓口として、学校と地域が連携・協働して行う取組の連絡調整、情報収集等を行います。

② 地域連携担当教職員の職務

【学校内で（教職員と）】

- 地域連携に関する校内のニーズを把握する。
- 地域連携に関する計画の作成、見直しをする。
- 地域連携に関する研修の機会を設けるなど、教職員の共通理解を図る。
- 地域の情報を教職員に提供する。

【学校外で（推進員や地域と）】

- 地域（推進員やボランティア等）と連絡調整し、連携を強める。
- 家庭や地域へ学校の情報を積極的に発信する。

3 「地域学校協働活動推進員」の役割と職務

① 地域学校協働活動推進員の役割

学校と地域をつなぐキーパーソンです。地域側の窓口としてボランティアと連絡調整しながら、地域連携担当教職員と連携し、学校支援活動の実施と充実に努めます。

② 地域学校協働活動推進員の職務

【学校内で（地域連携担当教職員や教職員と）】

- 地域連携担当教職員や教職員と活動実施に向けて連絡調整を行う。
- 学校や地域の実態に応じた連携・協働活動の企画提案を行う。

【学校外で（ボランティアや企業、関係機関・団体等と）】

- ボランティアへの活動依頼や連絡調整を行う。
- 地域資源（人・もの・こと）の発掘を行う。
- 企業、関係機関・団体との連携を推進する。
- 地域学校協働活動の取組について地域への情報発信を行う。

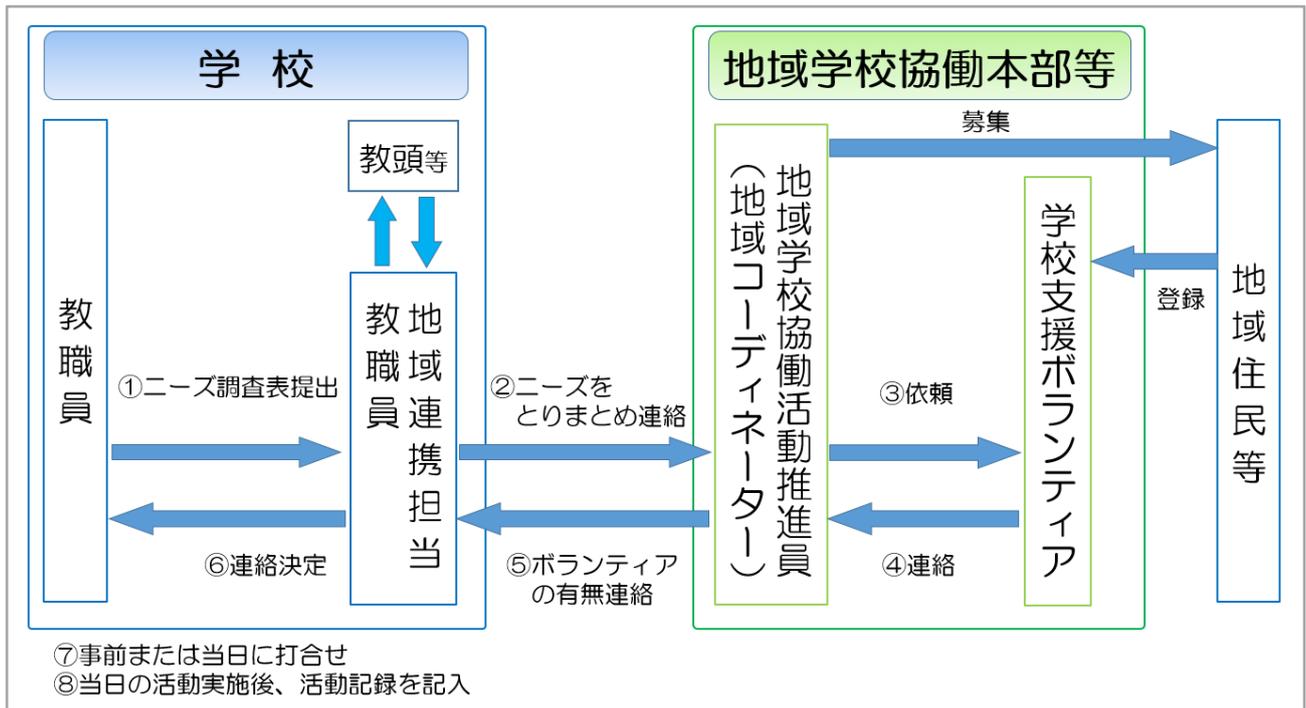


会津美里町教育委員会教育文化課に所属し、学校からのボランティア要請をもとに、学校支援ボランティアの皆さんを派遣し応援します。また、学校に協力してもらえる地域の団体に声をかけて、学校と結び付けることもしています。

4月の学校訪問による学校の要望・課題の聞き取り、2月のアンケートによる振り返りも大切にしています。支援対象は、こども園(町内4園)、小学校(4校)、中学校(3校)、大沼高校、町内の放課後子ども教室です。

会津美里町教育委員会の「学校支援コーディネーター」 山口 健氏のお話(R2年度)

4 コーディネートの流れ



※コーディネートの一例です。学校や地域の実態に応じて柔軟にコーディネートしてください。ニーズ調査表等の様式については、「お役立ちシート集」を御活用ください。

西会津町地域学校協働本部における打合せの様子（R元年度）

西会津町地域学校協働本部では、週に1回程度、西会津小学校内の一室に設置した家庭教育相談室「こころのオアシス」（地域の誰もが利用できる相談室）で、地域学校協働活動事業等の打合わせを行っています。参加者は、地域コーディネーターや家庭教育支援員、学校支援コーディネーター、教育委員会職員、小・中学校の地域連携担当教職員です。

ソファーに腰を下ろし、和やかな雰囲気の中でそれぞれが意見を出し合うことで、様々なアイデアが出され、建設的な話し合いとなり、充実した活動につながっています。

お茶を飲みながらリラックスした雰囲気の中で、和やかに話し合いを進めることができます。



第3章 学校と地域の連携・協働の進め方

1 学校と地域の連携・協働状況の確認 まずは、ここから…

学校と地域の連携・協働については、地域と学校の実態をとらえた上、学校長の学校教育目標のもとに進められていきます。

地域連携担当教職員は学校全体の協働活動の総合調整を行うミドルリーダーとして、まず、自校の連携・協働状況を把握することが大切です。そして、さらなる体制の整備のためにどのようなことが必要かを考えていくことが次へのステップにつながります。

ここでは、連携・協働状況の確認の目安としてのチェックシートを作成しましたので、自校の状況を確認し、次のアクションにつなげていきましょう。

○：当てはまる △：やや当てはまる ×当てはまらない

チェック項目	○ △ ×
1 地域連携・協働活動に関する全体計画・年間活動計画が作成されている。	
2 教職員が地域連携・協働活動の意義について共通理解する場がある。 (研修や職員会議等)	
3 地域学校協働活動推進員(地域コーディネーター)が配置されている。	
4 地域学校協働活動推進員との話合いや情報共有の場を設けている。	
5 ボランティアルームの設置や教職員への周知など、ボランティアの活動環境が整っている。	
6 活動が子どもたちにとって、単なる体験にとどまらず、ねらいに沿った教育活動になっている。	
7 ボランティアの募集や学校の教育活動、ボランティア活動の様子を載せた広報を地域に情報発信している。	
8 校内のニーズ調査用紙やボランティア打合せ用紙等の様式が整っている。	
9 活動の記録を取りまとめ、次年度の年間計画の見直しに生かしている。	
10 地域と学校が共にビジョンや目指す子ども像を共有するための場が設けられている。(コミュニティ・スクールでの熟議、ワークショップ等)	

まずは、自校の状況を確認し、できるところから少しずつ進めていきましょう。



2 学校と地域の連携・協働の進め方

Step 1 地域連携の趣旨と連携・協働体制の共通理解

地域連携担当教職員は、教頭等の管理職と協力して校内研修等を設定し、学校の教育方針や地域と連携することの目的や意義、協働を進めるに当たっての注意点などを確認したり、疑問や効果などを話し合ったりして学校としての方向性の共通理解を図りましょう。

その際に本ガイド2ページ及び3ページ、15ページを活用し、地域連携の趣旨を全教職員に説明し、共通理解を図ることも効果的です。

また、連携は「目的」ではなく「手段」です。学校の教育方針のもと、「何のために連携するのか」というねらいを明確にすることが大切です。

《職員会議や校内研修で》

地域との連携・協働活動を組織的・効果的に推進していくためには、教職員一人一人の協働活動に関する理解を深め、組織的に取り組んでいくことが必要不可欠です。職員会議の中で、地域連携や協働活動の意義や業務における注意点を年度始めに共通理解していくことはとても重要です。

【地域連携や協働活動の意義・必要性について】

- ・地域と共にある学校づくり（学校を核とした地域づくり）
- ・地域学校協働活動
- ・社会に開かれた教育課程の実現 等

【学校と地域の連携・協働体制について】

○校内での連携・協働体制

- ・校内ニーズの集約方法
- ・推進員やボランティアとの連絡調整方法
- ・記録のまとめ方（各種様式の説明）
- ・年間計画の作成方法 等

○地域の受け入れ体制

- ・地域との連携・協働に当たっての教職員の心得
- ・受け入れ体制の整備 等



【連携に関する活動づくりについて】

○地域理解の促進・地域資源の活用

- ・講話や講義の他に、フィールドワークやワークショップ 等

Step2 校内のニーズの集約と学校支援ボランティアの募集

先生方にとっては、学校支援ボランティアの協力を得たいと思っても、協力してくれる人材を見つけることが難しいことがあります。そのため、一人一人の先生が、どのような地域人材を求めているかを把握し、地域学校協働活動推進員あるいは学校とのパイプをもった人物に伝えることが、地域連携担当教職員として大切です。

そこで、先生方の「この授業のとき、こんな支援があるといいなあ」「この活動はこんな状況だったからもっとスムーズに進むのに」といった声を拾い上げるために、校内のニーズ調査を行うとよいでしょう。

本ガイド24ページ及び25ページのニーズ調査表を参考にしてニーズの集約に努めてみましょう。

調査表の内容としては、以下のような項目があればよいでしょう。

○学年 ○教科・領域 ○単元名 ○活動内容 ○時間
○実施期間 ○必要な地域人材（人数等も） ○必要な施設 等

（調査表の例）

校内ニーズ調査用紙（学期ごと）			
学習活動の充実や子どもたちの豊かな成長のために、地域ボランティアの協力を希望するものがありましたら、下記に記入して地域連携担当（ ）まで提出してください。（提出期限 月 日（ ））			
【第 学年】			
月	教科・領域 行事等	活動内容 （依頼内容・時間数）	必要な地域人材・団体等 （人数等も）

校内ニーズを参考にし、学校支援ボランティアの募集及びボランティア登録申請を進めてください。本ガイド22ページ及び23ページを御活用ください。

地域連携活動を一覧表にまとめると、推進員（コーディネーター）が、「いつ」「どのような人材が必要か」を把握することができ、地域人材との連絡調整を効率的に進めやすくなります。また、年間計画にも反映することができます。



Step 3 地域との連絡調整

① 地域学校協働活動推進員への依頼

推進員に活動の依頼をする際は、どんな目的で何を必要としているのかなどについて伝えます。推進員はこうした依頼をもとに、より良い教育活動になるように地域の人・もの・ことをコーディネートしてくれます。**依頼書の様式**については、本ガイド26ページを参考にしてください。

推進員と意思の疎通を重ねることで信頼関係が構築され、よりスムーズな連携・協働体制が整えられます。

② 地域学校協働活動推進員との打ち合わせ

推進員との打ち合わせは、**書面を活用し、顔を合わせて行う**ことが効果的です。これにより、確認不足や思い違いによるトラブルを避けることができます。また、打合せの際に、学校側と地域側とが**共通理解できる文書様式**があると、効率的・効果的に打ち合わせを行うことができます。

協力してくれるボランティアが決まったら、学校が希望する具体的な活動内容について打ち合わせをしましょう。打ち合わせでは、**学習のねらい、活動の流れ、活動場所、ボランティアの役割（準備物、どこで、何を、どんなふうに、何分くらい）**についても話し合っておきましょう。本ガイド28ページを参考にしてください。初めてのボランティアには、守秘義務や人権等のボランティアの心得などについて説明し、了承をいただきましょう。本ガイド29ページ及び30ページを御活用ください。

（打ち合わせ用紙の例）

学校支援ボランティア事前打ち合わせ用紙	
令和 年 月 日	
活動日	令和 年 月 日 () 活動時間: ~
	活動予備日 月 日 () 活動時間: ~
対象	学年 組 (人)
活動場所	教室 (年 組) ・ 体育館 ・ 校庭 ・ 特別教室 () その他 ()
活動名	
(分野)	教科等 () 総合的な学習の時間 () 学校行事 () クラブ活動・部活動 () 環境整備 () その他 ()
ねらい	
事前準備	(資料、材料、経費など)
役割分担	
連絡事項	(ボランティアに事前に伝えておきたいこと)
連絡先	担当教員 () TEL FAX

担任や地域連携担当教職員とボランティアとの打ち合わせも左のような様式があれば、短時間で行うことができます。

また、打ち合わせ用紙を保存しておけば、来年度の活動にも役立ちます。



Step 4 情報発信と情報収集

一つ一つの活動が、学校・家庭・地域のつながりを生むきっかけとなります。学校だよりやホームページ、市町村の広報誌等を活用し、活動の成果を家庭や地域に発信するとともに、多くの方々に参加や参画を呼びかけましょう。

① 情報発信の目的と内容

活動の中には、地域の一部の方だけが参画し、保護者や地域に活動があまり知られていないということもあります。多くの地域の方や保護者、関係機関や団体等多様な主体の参画を促進していくためには、学校から必要な情報を積極的に発信していく必要があります。

「学校で何が行われているのか」「学校が何を求めているのか」を地域に情報発信しながら、地域に積極的に関わることで、地域の学校への理解が深まり、地域住民や保護者の協力が得やすくなります。

活動の様子や参加者の感想等を掲載した学校だよりやホームページの原稿などは、教職員のみならず、地域や保護者にとっても視覚的に分かりやすい資料です。推進員や管理職とも相談しながら、情報発信をしていきましょう。**協働活動の記録としても活用できます。**



② 情報発信と情報収集の内容と方法

【地域への情報発信】

内容	場・時	方法
<ul style="list-style-type: none"> ○学校教育目標 ○年間行事予定 ○子どもたちの活動の様子 ○地域連携に関する取組の様子 ○ボランティア募集や依頼 等 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業参観日・保護者会 ○学校公開日・学校行事 ○掲示板 等 	<ul style="list-style-type: none"> ○学校だよりやボランティアだよりによる印刷物での発信 ○学校のホームページでの発信 ○学校に地域の方が集まる際に発信 ○地域の広報で発信 等

【地域からの情報収集】

内容	場・時	方法
<ul style="list-style-type: none"> ○公民館等の社会教育事業 ○自治会や地域団体の様子 ○地元企業やNPOの活動 ○子どもの通学路や防犯 ○地域の避難場所や防災 等 	<ul style="list-style-type: none"> ○PTA総会 ○地区懇談会 ○自治会会合 ○回覧板 ○広報紙 等 	<ul style="list-style-type: none"> ○公民館等社会教育施設での収集 ○会議への出席と聞き取り ○新聞や地域の広報・情報紙を読む ○学校運営協議会等での聞き取り ○ケーブルテレビの視聴 等

Step 5 次年度に向けて年間計画の見直し

① 活動の引き継ぎ

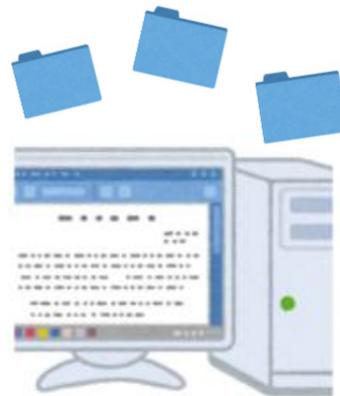
地域学校協働活動は組織的に実施していくことが重要です。「地域連携担当が替わったからできない」「推進員が替わったからできない」という状況がないように、**日頃から協働活動の情報を蓄積し、いつでもだれでも見ることができるように資料を管理しておくことが必要です**。学年ごとの活動でファイルを作り、次の学年に引き継ぐことも考えられます。校内サーバーに地域連携・協働活動関係のフォルダを作成し、電子データで保存しておくことで、次年度の活動を効率的に進めることができます。

② 活動の蓄積と検証

活動終了後は、成果と課題を検証し、記録に残しておきましょう。「学校や教職員」「子ども」「地域」それぞれの効果や改善点を整理することで、次年度の取組の改善や精選等を行うことができ、活動の充実につながります。「打ち合わせシート」といっしょに振り返りの欄を設けている学校や「打ち合わせシート」と「振り返りカード」を分けて活動の状況を蓄積している学校があります。**本ガイド28ページ**の「学習支援ボランティア打ち合わせ用紙」下欄の「活動の記録」欄を参考にしてください。必要に応じて、ボランティアの方へのアンケートを実施することも考えられます。

(記録用紙例)

項目	内容				
活動日時	令和	年	月	日()	校時
学年・学級	年 組				
活動名	「 」				
ボランティア氏名					
成果・課題					
改善点					



③ 人材リストの作成

活動状況の蓄積と同様に、地域人材の情報もリスト化しておくといよいでしょう。支援していただいたボランティアの方を人材バンクとしてまとめておけば、次年度の協働活動に役立ちます。登録申請書は、**本ガイド23ページ**を参照してください。地域連携担当や推進員が替わっても、情報を蓄積しておくことでスムーズに引き継ぎができます。

(人材リスト例)

No.	氏名	住所・連絡先	対象学年	活動内容
1	〇〇〇〇	〇〇町・Tel0000-00-0000	1・2年	生活科(見守り活動)
2	△△△△	△△町・Tel△△△△-△△-△△△△	6年	総合学習(キャリア教育)
3	□□□□	□□町・Tel□□□□-□□-□□□□	全校	読み聞かせ

④ 全体計画及び年間活動計画への位置付け

地域連携担当教職員と教務主任等との連携のもと、全学年分の年間の活動を検証し、全体計画及び年間計画に位置付けることで、学校として計画的に取組が進められるようになります。

昭和村立昭和中学校の「地域連携全体計画」、会津若松市立日新小学校と会津美里町立新鶴中学校の「地域連携年間活動計画」を掲載しましたので参考にしてください。

《昭和中学校の「地域連携全体計画」(令和2年度)》

地域連携全体計画

<ul style="list-style-type: none"> ○日本国憲法。 ○教育基本法。 ○学習指導要領。 ○福島県教育委員会重点施策。 ○昭和村教育委員会教育基本方針。 	<p>学校教育目標</p> <p>郷土を愛し、自立への高い志をもち、可能性に挑戦する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○児童の実態。 ○地域の実態。 ○学校、家庭、地域の願い。 																		
<p>地域連携で目指す生徒像</p> <p>○昭和村を愛し、昭和村に誇りを持てる生徒。</p>	<p>地域連携推進目標</p> <p>○様々な立場の人と関わることで、自分や友達のよさや個性に気づき、自分の生活や周りの環境に関心をもたせる。</p> <p>○仕事・職業についてよく考え、夢や希望を抱くとともに、そこに向かって努力する態度を育てる。</p>	<p>学校課題の推進</p> <p>○生徒一人ひとりの自己肯定感を高める指導・援助の工夫～授業と教育相談との連携を通して～</p>																		
<p>生かしたい力</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;"> <p>地域の人材</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校支援ボランティア、地域コーディネーターの活動 ・学習支援：長期休業中の学習支援 ・環境支援：交通安全指導、校庭・図書室整備等 ・各関係機関・企業等との連携 ・出前講座 ・ゲストティーチャーを活用した授業 </td> <td style="width: 50%;"> <p>地域の資源</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域資源を活用した校外活動 ・幼児・高齢者との交流、小・中学校間交流、森林学習、カスミソウ学習、そば栽培、そば打ち ・社会教育施設の活用 ・公民館がもつ地域情報の活用 </td> </tr> </table>			<p>地域の人材</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校支援ボランティア、地域コーディネーターの活動 ・学習支援：長期休業中の学習支援 ・環境支援：交通安全指導、校庭・図書室整備等 ・各関係機関・企業等との連携 ・出前講座 ・ゲストティーチャーを活用した授業 	<p>地域の資源</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域資源を活用した校外活動 ・幼児・高齢者との交流、小・中学校間交流、森林学習、カスミソウ学習、そば栽培、そば打ち ・社会教育施設の活用 ・公民館がもつ地域情報の活用 																
<p>地域の人材</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校支援ボランティア、地域コーディネーターの活動 ・学習支援：長期休業中の学習支援 ・環境支援：交通安全指導、校庭・図書室整備等 ・各関係機関・企業等との連携 ・出前講座 ・ゲストティーチャーを活用した授業 	<p>地域の資源</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域資源を活用した校外活動 ・幼児・高齢者との交流、小・中学校間交流、森林学習、カスミソウ学習、そば栽培、そば打ち ・社会教育施設の活用 ・公民館がもつ地域情報の活用 																			
<p>努力点および具体策〔各教科・領域等〕</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 15%;">各教科</td> <td>・学習内容に関連したゲストティーチャーを迎え、専門的な視点で支援していただく。</td> </tr> <tr> <td>道徳</td> <td>・価値観の高い経験をされた先輩を選出し、講演依頼をする。</td> </tr> <tr> <td>特別活動</td> <td>・〔学級活動〕身近にあるボランティア活動について考える。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>・〔生徒会活動〕公民館の清掃ボランティア等を行う。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>・〔学校行事〕キャリア教育講演会、森林学習の実施、村運動会、村文化祭への参加。</td> </tr> <tr> <td>総合的な学習の時間</td> <td>・〔1年〕郷土についての調べ学習や体験学習を通して、郷土を愛する気持ちを育てる。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>・〔2年〕地域での職場体験等を通して、働くことの意義や目的の理解、望ましい勤労観を育てる。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>・〔3年〕大都市の産業や文化を体験する活動を通して、昭和村の良さや魅力について学ぶ。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>・〔全学年〕村の基幹産業であるカスミソウの栽培から流通までを、3年間を通して学習し、その魅力や生産状況について学ぶ。</td> </tr> </table>			各教科	・学習内容に関連したゲストティーチャーを迎え、専門的な視点で支援していただく。	道徳	・価値観の高い経験をされた先輩を選出し、講演依頼をする。	特別活動	・〔学級活動〕身近にあるボランティア活動について考える。		・〔生徒会活動〕公民館の清掃ボランティア等を行う。		・〔学校行事〕キャリア教育講演会、森林学習の実施、村運動会、村文化祭への参加。	総合的な学習の時間	・〔1年〕郷土についての調べ学習や体験学習を通して、郷土を愛する気持ちを育てる。		・〔2年〕地域での職場体験等を通して、働くことの意義や目的の理解、望ましい勤労観を育てる。		・〔3年〕大都市の産業や文化を体験する活動を通して、昭和村の良さや魅力について学ぶ。		・〔全学年〕村の基幹産業であるカスミソウの栽培から流通までを、3年間を通して学習し、その魅力や生産状況について学ぶ。
各教科	・学習内容に関連したゲストティーチャーを迎え、専門的な視点で支援していただく。																			
道徳	・価値観の高い経験をされた先輩を選出し、講演依頼をする。																			
特別活動	・〔学級活動〕身近にあるボランティア活動について考える。																			
	・〔生徒会活動〕公民館の清掃ボランティア等を行う。																			
	・〔学校行事〕キャリア教育講演会、森林学習の実施、村運動会、村文化祭への参加。																			
総合的な学習の時間	・〔1年〕郷土についての調べ学習や体験学習を通して、郷土を愛する気持ちを育てる。																			
	・〔2年〕地域での職場体験等を通して、働くことの意義や目的の理解、望ましい勤労観を育てる。																			
	・〔3年〕大都市の産業や文化を体験する活動を通して、昭和村の良さや魅力について学ぶ。																			
	・〔全学年〕村の基幹産業であるカスミソウの栽培から流通までを、3年間を通して学習し、その魅力や生産状況について学ぶ。																			

地域連携で目指す生徒像が学校教育目標とのかかわりで設定されています！

各教科・領域における努力点及び具体策を明確にすることで、カリキュラム・マネジメントの確立につながります！

地域連携全体計画等を作成し、教育課程に位置付けることで、計画的、組織的、継続的に地域との連携・協働した取組を推進していくことができます。県社会教育課HPには、その様式集がありダウンロードできます！



【昭和中学校の地域連携全体計画(一部抜粋して掲載)】

学校教育目標を具現するために計画を作成し、連携・協働活動がどう関わっているのかを明確にすることで、各教科等における連携・協働活動が、学校の教育目標の達成につながっていることを確認することができ、指導の幅が広がります。

《日新小学校及び新鶴中学校の「地域連携年間活動計画」(令和2年度)》

日新小学校と新鶴中学校の地域連携年間活動計画を紹介します。

地域学校協働事業年間活動計画

	4月	5月	6月	7月	8・9月	10月
1年	○学校行事 春の遠足(錦ヶ城方面)	●行事 クリーン活動(環境整備) ○生活科 夢農園(サツマイモ) 野菜の植え方(栽培指導) アサガオの種まき	○体育科 水泳(指導)	○生活科 老人会とのふれあい(昔遊び) みずであそぼう ●国語科 昔遊び感謝の手紙	○学活 子ども人生講座(人権教育)	○生活科 リース作り(補助) 夢農園(サツマイモ) 野菜の収穫(栽培指導) ○体育科 体操(指導) ○生活科 公園で遊ぼう(補助)
2年	○学校行事 春の遠足(運動公園方面) ○生活科 夢農園(ジャガイモ) 野菜の植え方(栽培指導)	●行事 クリーン活動(環境整備)	○体育科 水泳(指導) ○生活科 町探検・生き物探し(引率)		○生活科 夢農園(ジャガイモ) 野菜の収穫(栽培指導) ○生活科 老人会とのふれあい(昔遊び) ●国語科 昔遊び感謝の手紙	○体育科 体操(指導) ○生活科 図書館見学(補助、指導)
3年	○社会科 学校のまわり(探検引率) ○学校行事 春の遠足	●行事 クリーン活動	○体育科 水泳(指導)		○総合 夢農園(ジャガイモ) 野菜の収穫(栽培指導)	○総合 夢農園(玉ねぎ) 野菜の植え方(栽培指導) ○生活科 公園で遊ぼう(補助)

日新小学校の年間活動計画は、各学年がどの月に行うのかを一覧表にまとめています。
(A4判横長サイズ)

新鶴中学校の年間活動計画は、全校の連携・協働活動の1年間の流れが分かるように一覧表にまとめています。
(A4判縦長サイズ)

【日新小学校の地域連携年間活動計画(一部抜粋して掲載)】

どちらの学校の年間活動計画も、

- 印・・・地域貢献活動
- 印・・・学校支援活動
- ◎印・・・支援・貢献両面

の表記により、連携・協働活動の種別がひと目で分かるようにしています。これにより、自校における地域との連携・協働活動の傾向が把握でき、計画の改善等に役立てることが出来ます！



地域連携年間活動計画	
月	学習活動内容
4月	●PTA資源回収への参加 ●交通安全指導活動(PTA,生徒) ○総合学習・音楽・学級活動 新鶴絆太鼓
5月	●ヤンボラに於ける「環境清掃美化活動」への参加 ○総合学習・音楽・学級活動 新鶴絆太鼓
6月	●ヤンボラに於ける「花いっぱい活動」への参加 ○総合学習・音楽・学級活動 新鶴絆太鼓
7月	●御田植え祭りへの参加 ○総合学習・音楽・学級活動 新鶴絆太鼓 ○ヤンボラに於ける「川の学習」への参加
夏休み	○学習支援(夏季学習会)
8・9月	●新鶴運動会へのボランティア参加 ●ヤンボラに於ける「こども園清掃ボランティア」への参加 ●町ウォークラリーへの参加 ○総合学習・音楽・学級活動

【新鶴中学校の地域連携年間活動計画(一部抜粋して掲載)】

年間を通して計画的に連携・協働活動を進めるためには、いつ、どのような教科・領域で、どのような活動を行うのかを整理することが大切です。これにより、地域連携担当教職員や推進員が、学校支援ボランティアや関係団体等との連絡・調整を見通しをもって計画的に行うことができ、協働活動を効率的に進めることができます。

⑤ 社会に開かれた教育課程を踏まえて

新学習指導要領では、よりよい学校教育を通じて、よりよい社会を創るという目標を共有し、**社会と連携・協働しながら未来の創り手となるために必要な資質・能力を育む「社会に開かれた教育課程」の実現**を目指しています。

また、今の子どもたちやこれから誕生する子どもたちが、成人して社会で活躍する頃には、我が国は厳しい挑戦の時代を迎えていると予想されます。生産年齢人口の減少、グローバル化の進展や絶え間ない技術革新等により、社会構造や雇用環境は大きく、また急速に変化しており、予測が困難な時代となっています。**新たな社会（Society5.0）を生き抜いていくために、これからの時代に必要な力の育成が求められています。**

そこで、年度末に活動の振り返りとともに、次年度の計画段階で、**それぞれの協働活動は「何を学ぶのか」という指導内容の見直しだけでなく、「どのように学ぶのか」「何ができるようになるのか」まで念頭に入れて活動を年間計画に位置付けていくことが大切です。**

新学習指導要領では

2030年、
Society5.0
時代に
求められる
資質・能力を
目指している

何ができる
ようになるか

「社会に開かれた
教育課程」の
実現
各学校における
「カリキュラム・
マネジメント」

何を学ぶ
のか

未知の状況にも
対応できる
思考力・
判断力・
表現力
など

どのよう
に学ぶか

実際の社会や生活
で生きて働く

知識
及び技能

学んだことを人生
や社会に生かそう
とする

学びに
向かう力、
人間性など



育む



伝統行事の継承（慶徳小）

地域学校協働活動における

- 放課後の遊び
- 体験活動、ボランティア活動
- 様々な人々との交流 など

- 他者との協働体験、多様性の理解
- 成功と失敗の体験
- 活動を通じた人々とのコミュニケーション



猪苗代湖の水環境改善活動（翁島小）



東京での高郷のよさPR活動（高郷小）



地域での除雪ボランティア（塩川小）

第4章 地域との連携・協働を進めるに当たって

1 教職員の心得

地域のボランティアを受け入れるためには、まず、学校の受け入れ体制を整えることが大切です。地域の方に気持ちよく活動していただくためには、気を付けておかなければいけないことがいくつかあります。

まず、教職員の心がけです。地域の方は、学校のお手伝い係ではなく、子どもたちのために一緒に教育活動に携わる「パートナー」です。敬意を払い、常に感謝の気持ちを持つことが大切です。そのためには以下のような心得を意識して活動し、信頼関係を構築していく必要があります。

年度始めの職員会議等の際に、教職員で共通理解を図るなどして、受け入れ体制の構築に努めましょう。

《教職員の心得》

① ボランティアを全教職員で気持ちよく迎えましょう

笑顔であいさつを交わし、全教職員で気持ちよく対応をしましょう。

担任や担当は、ボランティアが来校することを教頭等に伝え、教頭等は、板書や週報等で全職員に伝えるなど、教職員間の共通理解を図ることが大切です。

ボランティアにとって、学校は気軽に出入りできる場所ではありません。学校を訪れた際に、先生方に笑顔であいさつされたり、明るく声をかけられたりすると、心がほぐれます。積極的にあいさつをして心と心をつなぎましょう。

② ボランティアの居場所を用意しましょう

活動の準備や着替えのできる「ボランティアルーム」のような場所があれば望ましいのですが、職員室などの一角にソファを置くだけでもよいでしょう。

③ ボランティアの気持ちを大切にしましょう

ボランティアの考えを尊重し、「思い」や「やる気」を十分引き出しましょう。

例えば、一緒に活動案を作るなどすれば、ボランティアの思いが活かされた活動につながっていきます。

④ コミュニケーションの場を持ちましょう

ボランティアとのコミュニケーションの場をつくり、時には一緒にお茶を飲むなどして話をしましょう。お互いの思いが伝わり、スムーズな活動につながります。

また、信頼感が生まれることで、活動に広がりや深まりがもたらされます。

⑤ 互いに学び合いましょう

地域の方からの意見や相談にしっかりと耳を傾けましょう。また、活動の中で良かったことや気付いたこと、工夫してほしいことなどを伝え合いましょう。

2 受け入れ体制の整備

地域の方を学校に迎えるに当たり、活動予定を職員会議や打合せ等で事前に伝えるなど、教職員間で協働活動についての共通理解が図られるようにします。

また、子どもたちにも、地域の方が来校することを事前に説明するとともに、学校や子どもたち自身が地域に支えられていることを子どもたちが理解できるように、日頃から指導を積み上げていくことが大切です。

① 学校の情報を提供しましょう

学校経営ビジョンや学校便り等、学校が提供できる情報は可能な限り提供しましょう。

ただし、個人情報等についての取り扱いについては、注意が必要です。



② 子どもたちに説明しておきましょう

地域の方が何のために来校しているのか、子どもたちに事前に説明しておくことが大切です。学校が、地域の方に支えられていることを理解できる事前指導をしましょう。

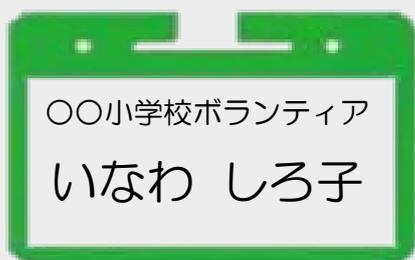
③ 学校行事へ招待しましょう

日頃から、地域住民を学校行事に招待しましょう。行事を通して、子どもの実態や学校の様子を理解してもらう絶好の機会になります。地域と教職員、子どもたちとのコミュニケーションも生まれ、スムーズな連携が図られるようになります。

④ 施設・設備、教材・教具を見てもらいましょう

学校にどのような施設・設備や教材・教具があるのかという情報は、ボランティアが活動内容を考えるときに、とても役立つ情報です。

⑤ ボランティア用名札等を用意しましょう



ボランティア専用の名札等を用意し、活動中に付けてもらうと、教職員や子どもたちにも一般の来校者との区別ができます。

安全管理の面からも大切です。

⑥ ボランティアの居場所を用意しましょう

余裕教室等を利用して、活動準備や休憩等に利用できる「ボランティアルーム」があれば、ボランティア同士や教職員との打ち合わせ・情報交換の場になります。

⑦ ボランティア活動の情報発信に心がけましょう

ボランティアが活動している様子を、子どもや教職員、保護者や地域の人々に伝えるため、校内の掲示板等を利用したり、推進員と協力して、「お便り」等を発行したりし、紙面やホームページを通して活動の様子を発信しましょう。



《会津坂下町立坂下東小学校の「ボランティアルーム」》

坂下東小学校には、たくさんのボランティアの方々が来校され、様々な活動をしています。坂下東小学校では、校内に「ボランティアルーム」を開設して、ボランティアの方々の居場所づくりをしています。



ソファとテーブルを置いて、ゆったり過ごすことができるようにしています!

《金山町立横田小学校の「横田っ子応援団」の掲示》

金山町立横田小学校は、地域の方々に様々な形で支えていただいています。

そのことを、掲示を通して子どもたちに感じてもらえたらと考え、学校を支援してくださる地域の方々を紹介する掲示コーナーを設けています。



3 地域の方を迎えるに当たっての留意事項

活動に当たっては、以下のことを管理職と確認しておくといいでしょう。

経費

ボランティアの活動内容によっては、材料費や交通費等が必要となることがあります。活動内容やボランティアによって違いますので、誰が費用を負担するのかについて確認しておく必要があります。

接待

学校の中に簡単な控え室（ボランティアルーム等）を用意しましょう。
また、休み時間に子どもと自由に交流できる機会を設けるのも有意義です。

謝礼

ボランティア活動なので原則無償です。子どもの笑顔と感謝の気持ちが「お礼」となります。活動後に子ども全員に手紙を書かせることも考えられますが、負担にならないよう配慮しましょう。活動後の会話や挨拶で感謝の気持ちは十分に伝わります。



保険

ボランティアでも、対人・対物賠償等損害賠償に関わる責任を負うことがある旨をボランティアに理解してもらう必要があります。

各市町村でボランティア保険等に参加している場合もあるので、各市町村の教育委員会へ問い合わせましょう。

ボランティア活用の実践事例

《喜多方市立塩川小学校の「マル付けボランティア」の取組》

塩川小学校では、教員を退職された地域の方々に「マル付けボランティア」として、子どもたちの宿題のノートやプリントのまる付けや評価コメントの朱書きを行っていただいています。

ボランティアの方々が午前中2時間程活動しており、各学年、週に1回ほど日替わりで宿題を見ていただいています。

地域におられる元教員の方々の“マンパワー”を活用して子ども・先生・ボランティアのそれぞれがWin・Win・Winとなる効果的な取組です。



「マル付けボランティア」活動の様子（R元年度）

4 地域の方との共通理解について

学校の教育活動においては、守らなければならないことや配慮しなければならないことがたくさんあります。学校の実態を伝えるとともに、打ち合わせ等の機会に本ガイド29ページから31ページの資料を活用して、共通理解に努めましょう。

《学校支援ボランティアの心得》

① 子どもの良いところをほめましょう

子どもの活動・行動をしっかり見つめて、ほんのささいなことでも、良いところを見つけてほめてあげましょう。子どもは、より意欲的に取り組むようになります。

② 自信を持って大きな声で話をしましょう

せっかく楽しく役に立つ話でも、聞こえなければ子どもは飽きてしまいます。自信を持って大きな声で話しましょう。

③ 時には厳しく、毅然とした態度も必要です

友達の悪口（人権に関わること等）を言ったり、けがや命にかかわる言動があったりした時にはしっかり注意しましょう。

④ 次のことは法令で禁じられています

○守秘義務があります。

学校には個人的・公的な秘密があり、教職員には、職務上知り得た秘密をもらしてはいけないという守秘義務があります。教育活動を通して、子どもと関わりを持つ学校支援ボランティアも同じで、活動の中で知り得た秘密（個人情報等）は、絶対に守らなければなりません。

○体罰は決して加えてはいけません。

○政治・宗教・営利目的の活動を行ってはいけません。

⑤ 人権について

○社会的性別（ジェンダー）に敏感な視点を持ちましょう。

「女はこうあるべき」「男はこうあるべき」など、性差別を助長するような表現は使わないようにしましょう。

○適切な言葉遣いをしましょう。

子どもに分かりやすい、やさしい言葉で話すように心がけましょう。また、特に配慮を要する子どもなど、様々な環境で育ってきた子どもがいることを十分に理解した上で接することが大切です。

⑥ その他

○学校や教職員の批判を子どもの前で絶対に言わないようにしましょう。

○どの子どもに対しても公正・公平な態度で接しましょう。

○活動の中で気付いたことは、遠慮せず先生に相談しましょう。

お役立ちシート集

地域連携担当教職員の業務に役立てていただくために、「お役立ちシート」を各種作成しました。

複数様式を用意していますが、学校の実態に合わせて御活用いただきますとともに、会津教育事務所のホームページからダウンロードし、編集することも可能ですので、使いやすいようにアレンジして御活用いただいてもかまいません。

各学校において、地域との連携・協働活動を進める際の一助になればと思います。



※ このシートは、福島県教育庁会津教育事務所のホームページからダウンロードできます。

<https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/70410a/>

福島県教育庁会津教育事務所

検索



学校支援ボランティア募集

学校支援って何？

地域の人々が、学校を支援する活動です。
「子どもたちのために、何かお手伝いしてみたい！」
という思いのある方ならどなたでも参加できます。

会津の歴史を教えて
もらいたいなあ…



どんな活動をしているの？

これまでの活動では…



クラブ活動支援



授業支援



環境整備支援

お問い合わせは…



どんなシステムなの？

①学校から支援依頼が教育委員会の地域学校協働活動推進員(地域コーディネーター)に出ます。
(人手が足りないので、家庭科の授業のサポートをしてほしい！ 昔遊びを教えてほしい！ など)

②地域学校協働活動推進員がボランティアさんに要請の声をかけます。

登録していただいているボランティアさんの中から、依頼に合った方に声をかけさせていただきます。
ボランティア活動は、「できる人が」「できる時に」「できること」をが基本で、強制するものではありません。
参加可能な場合に御協力いただくスタイルです。

③学校の活動を支援していただきます。

先生の授業のサポートや登下校の見守り、運動場の除草、花壇や農園の手入れ、図書の整理など、様々な活動の支援をしていただきます。

ボランティア登録の方法は？

裏面の「学校支援ボランティア登録申請書」に必要事項を記入していただき、教育委員会まで御持参ください。
登録後は、学校支援要請や更新伺い等のお知らせがあります。(傷害保険有り)

会津.



〇〇町教育委員会

TEL: - -

赤べこ学園小・中学校

TEL: - -

お問い合わせ

令和 年度 ボランティア登録申請書

申込日：令和 年 月 日

ふりがな		性別		生年 月日	年 月 日
氏 名					
住 所	〒 ー				
電話番号			メール		
	活動分野	指導・支援内容（番号を○で囲んでください）			
	A 環境整備	1 校庭の除草、花壇や農園の手入れ 2 図書の整理			
	B 登下校安全確保	3 登下校の見守り 4 学校内安全パトロール			
	C 学校行事支援	5 学校行事の支援 （例：プール監視、マラソン大会見守り 等）			
	D 郷土学習支援	6 郷土学習（歴史、自然、伝統文化、産業 等）			
	E 学習支援	7 教科指導補助（家庭科、図工、音楽 等） 8 パソコン授業の支援			
	F 校外学習支援	9 校外学習（町探検、見学等の際の付添い・見守り）			
	G クラブ活動支援 部活動支援	10 小学校のクラブ活動支援 （茶道、絵手紙、ニュースポーツ等） 11 中学校の部活動支援 （サッカー、陸上、バスケットボール、吹奏楽等）			
	H その他	12 昔遊び 13 読み聞かせ 14 その他（ ）			
趣 味 特 技	可能な範囲でお書きください。（他にも資格、免許、指導歴 等）				
そ の 他	<ul style="list-style-type: none"> ・活動上の特記事項（活動時間の制限がある等）その他御自由にお書きください。 ・都合のよい曜日は（ 月 火 水 木 金 ）です。 ・なるべく（ ）曜日は避けて連絡してもらいたいです。 ・電話は（ ）時頃にかけてもらえると出やすいです。 				

※この申請書に記載された個人情報は、学校支援活動に関わる事以外には使用しません。
また、活動写真などを広報に掲載させていただく場合がありますので御了承ください。

校内ニーズ調査用紙（年間）

今（次）年度の授業や学校行事、校内の環境整備等の中で、地域ボランティアの協力を希望するものがありましたら、下記に記入して地域連携担当（ ）まで提出してください。（提出期限 月 日（ ））

【第 学年】

月	教科・領域 行事等	活動内容 (依頼内容・時間数)	必要な地域人材・団体等 (人数等も)
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
1			
2			
3			

校内ニーズ調査用紙（学期ごと）

学習活動の充実や子どもたちの豊かな成長のために、地域ボランティアの協力を希望するものがありましたら、下記に記入して地域連携担当（ ）まで提出してください。（提出期限 月 日（ ））

【第 学年】

月	教科・領域 行事等	活動内容 (依頼内容・時間数)	必要な地域人材・団体等 (人数等も)

校内ニーズ調査用紙（随時）

学習活動の充実や子どもたちの豊かな成長のために、地域ボランティアの協力を希望するものがありましたら、下記に記入して地域連携担当（ ）まで提出してください。（提出期限 月 日（ ））

【第 学年】

月	教科・領域 行事等	活動内容 (依頼内容・時間数)	必要な地域人材・団体等 (人数等も)

※できるだけ具体的に書いてください。

※学校 → 教育委員会（地域学校協働活動推進員）へ

学校支援ボランティア依頼書

依頼事項	5学年 家庭科の授業支援（裁縫：玉結び・玉止め）		
活動場所	家庭科室		
学 年	5年1組 及び 5年2組	担 当	
月 日	月 日（ 曜日）		
時 間	校時 時 分 ～ 時 分		
依頼内容	○各グループに1名ずつ付き、玉結び・玉止めの補助をお願いします。		
ボランティア の人数	6名をお願いします。		
そ の 他	<ul style="list-style-type: none"> ・当日は10時15分までに家庭科室（3階）にお集まりいただきたいと思います。打ち合わせを行います。 		

令和 年 月 日

様

_____ についてのご案内

平素より学校支援ボランティア活動に、御協力いただきありがとうございます。日程等の御案内をいたしますので、御確認ください。

1 日 時 月 日() 時 分 ~ 時 分

2 場 所 _____

3 活 動 _____

4 準備物 _____

5 その他 _____

- 活動中知り得た情報については、守秘義務が発生しますので、他者に漏らすことがないようお願いいたします。
- 活動中に写した写真や動画は、広報や活動報告などで使用させていただくことがあります。(不都合がある場合は、事前に御連絡ください。)

御不明な点や変更等がありましたら、()まで御連絡ください。

どうぞよろしくようお願いいたします。

【事務担当：〇〇小学校() TEL()】

学校支援ボランティア事前打ち合わせ用紙

令和 年 月 日

活 動 日	令和 年 月 日 () 活動時間： ～
	活動予備日 月 日 () 活動時間： ～
対 象	学年 組 (人)
活動場所	教室 (年 組) ・体育館 ・校庭 ・特別教室 () その他 ()
活 動 名	
(分野)	教科等 () 総合的な学習の時間 () 学校行事 () クラブ活動・部活動 () 環境整備 () その他 ()
ね ら い	
事前準備	(資料、材料、経費など)
役割分担	
連絡事項	(ボランティアに事前に伝えておきたいこと)
連 絡 先	担当教員 () TEL FAX

活動の記録

※以下は活動後に記入し、ファイリングする。

活 動 日	令和 年 月 日 () 活動時間： ～
参 加 者	ボランティア (名) 氏名
次年度に 向けて	

※次年度に向けて、成果や課題、改善案・留意点等を記入してください。

《学校支援ボランティアの心得》

活動前の打ち合わせは・・・

学校支援ボランティアとして活動することが決まったら、先生と十分な打ち合わせをしましょう。

- 当日の学校に着いてからの動きと活動場所などを確認しましょう。
- 学習活動のねらいや子どもの様子について確認しましょう。
- 活動内容については、自分の考えを提案しましょう。

活動時に気を付けることは・・・

子どもをほめましょう

ほめられると子どもたちは、より意欲的に取り組みます。
ほんのささいなことでも、良いところを見つけてほめてあげましょう。

自信を持って大きな声で話しましょう

楽しく役に立つお話でも、聞こえなければ子どもたちは飽きてしまいます。
自信を持って大きな声で話しましょう。



時には厳しく、毅然とした態度も必要です

友だちの悪口を言ったり、けがや命にかかわる言動があったりした時にはしっかり注意しましょう。

○ 活動の中で知り得た子どもの秘密は守る。

○ 学校や先生の批判を子どもの前で絶対に言わない。

○ いかなる場合でも体罰は行ってはいけない。

○ 活動の中で気付いたことは、遠慮せずに先生方に相談する。

《学校支援ボランティアの皆さんへ》

学校ってこんなところですよ！



ある小学校の1日(例) ※6校時の場合

時刻	日課
8:00	児童登校
8:15	学級朝の会
8:35	1校時
9:20	次の授業の準備
9:30	2校時
10:15	業間(〇〇タイム)
10:35	3校時
11:20	次の授業の準備
11:30	4校時
12:15	給食
13:05	昼休み
13:40	清掃
14:00	5校時
14:45	次の授業の準備
14:55	6校時
15:40	学級帰りの会
15:55	児童下校
放課後	<ul style="list-style-type: none"> ・課外活動(陸上、合唱、吹奏楽等) ・職員会議や校内研修会 ・教材研究、授業の準備 ・校務分掌・学級事務 ・保護者への連絡 等

出欠の確認、健康観察、子どもへの連絡を行います。

子どもと一緒に活動したり、授業の準備をいたします。

配膳や食事のマナー、食に関する指導を行い、子どもと一緒に食事を摂ります。

POINT

◎学校への最初の問い合わせや御相談は…

教頭先生や教務主任の先生、学校と地域を結ぶ地域連携担当の先生へ！

◎担当の先生とお話していただくには…

事前に連絡をとってください。
昼休みや放課後がつながりやすいです。



学習（授業）の進め方

小学校では45分間、中学校では50分間を1単位時間としています。

学校教育目標



教科の目標



単元の目標



本時の目標

各学校では文部科学省が定めた学習指導要領に基づき、学年毎に年間の指導計画を作成しています。

子どもたちがその学年での目標が十分達成されないと、次の学年における学習に大きな影響を与えかねません。それだけに1時間1時間の授業は重要です。

学習の目標を達成し、多様な学習ニーズに対応するためにも専門性や技能・技術力を活かした学習（授業）支援は、子どもたちの学習を深めていく上で、効果的かつ有効なものとなります。

1時間の授業の流れ

導入(5分～10分)

出会う

■学習課題をはっきりさせるとともに学習意欲を高めます。

あれ？ どうして？ ふしぎだなあ！

展開(30分～40分)

深める

■課題解決のための学習活動です。

課題について考え、思いや意見を交流をすることで、学びをより深めていく学習活動の中心となる部分です。

よく調べてみよう！ ○○するとどうなるんだろう？



終末(5分～10分)

まとめる

■学習したことを振り返り、学習内容の定着、次の学習への方向付け、学習意欲の喚起などに努めます。

なるほど！ またやってみたい！

POINT

◎子どもは、興味を持ったことに、さまざまな疑問を持ち、ときには**予想もしないことをつぶや**きます。

◎子どもたち一人ひとりの思いや願いを大切に、**その子なりのペース**があることを認めてあげてください。

◎詳細については、先生との**十分な打ち合わせ**が必要です。

平らな道ではありませんでした。

真直ぐな道ではありませんでした。

復興は、まだ道半ば。ひとりひとりが
それぞれの日常を丁寧に、歩みながら。

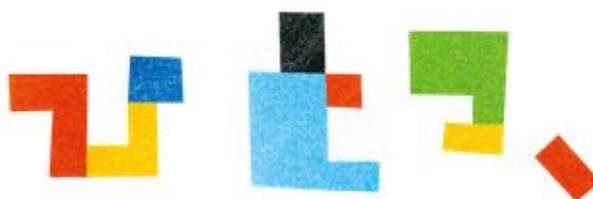


Not a Dream.



希望も、夢も、現実となるその日
を作るための入口なのだと思います。

はじめる、から、かなえる、へ。



チャレンジの卵の、その殻を破り、
生まれるものたち。それぞれの場所、
それぞれの思い、それぞれの歩幅で。
ともに思い合いながら。

